

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571200231		
法人名	社会福祉法人 恒和会		
事業所名	グループホームゆうわ苑		
所在地	〒742-1352 柳井市大字伊保庄近長浜1-4		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果市町受理日	平成26年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者・入所者家族・職員を含め、大家族で生活しているという考え方の元で、個人の能力を生活に生かし、個人にあった過ごし方ができるよう職員全員で努めています。また、季節感のある工作物の製作や月に1回のお菓子作りなど行事に取り入れ、職員共々楽しめる空間づくりを心がけています。地域とのつながりも大切にしており、ボランティアのかたも行事へ参加していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

畑で枝豆やピーマン、ミニトマトなどの野菜を育てられ、収穫して調理して一品添えられたり、トランプやかかるた、すごろく、ボーリング、テレビ体操、工作(羽子板や掛け軸)、ハンカチ染めなど、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしておられ、作った作品は家族に送られ、利用者の作品を自宅でも飾っていただけるように支援されています。お花見や納涼祭、元気祭り、敬老会などの事業所の行事に家族も参加され、利用者と一緒に食事をつくれ、食事をしながら会話を楽しめられたり、他の利用者家族とも交流されるなど、利用者と家族の交流を大切にされています。地域の祭りに利用者と職員が参加されたり、法人主催の行事には地域からも多くの参加がある他、毎月、地域のボランティアが来訪され、おやつづくりをされたり、ドライブで出かけるときにも同行されるなど、利用者が地域の一員として暮らし続けられるように地域の人たちとの交流に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の「地域の方と交流を持ちながらその方らしい生活を送っていただく」ということを理念とし、職員全員が認識し実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者および職員はミーティングで話し合い、理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人全体で納涼祭・元気祭りなど行事を主催したり、地域のお祭りに入所者・職員が参加し交流している。	地域の伊保庄まつりや公民館まつり、神明祭りに利用者と職員が参加している他、法人主催の納涼祭や元気祭りに地域の人が参加して交流している。保育園と小学校の児童との交流(お遊戯の鑑賞)、小学校を訪問して介護劇を行ったり、年1回の音楽ボランティアや月1回の行事ボランティア(お菓子作り、ドライブの付き添い等)の来訪があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて認知症のサポーター養成講座など勉強会を行っている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を職員全員に配布し主任が意見をまとめて自己評価を作成している。外部評価の結果はミーティングで報告し改善方法について検討している。	自己評価をするための書類を全職員に配布し、できるところを記入してもらい、主任が取りまとめている。職員の記入が少なく、改善に向けた意見も出ていない。前回の外部評価の結果を受けて、日中玄関の鍵を開けているなど、改善に取り組んでいる。	・全職員での項目の理解と活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行い毎回活動報告などすると共に、様々な取り組みについても意見交換を行いサービスの向上に努めている。	2ヵ月に1回開催している。利用者の状況報告、行事報告、ヒヤリハットや事故報告、外部評価の取り組み状況の報告をし、意見交換している。土砂災害を含めた災害時の意見や徘徊等について話し合い、サービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人の地域連携室を通じて話し合ったり、運営推進会議を活用している。	市担当課と運営推進審会議の他、法人の地域連携室を通じて話し合うなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束につながる行為の理解を深めると共に、カンファレンスで検討し共有スペースを活用した見守りなどケアの工夫をしている。また、法人内に委員会を設置し研修を行っている。	法人の身体拘束防止委員会に参加し、法人研修「高齢者の虐待防止法の理解」(年2回)で研修し、職員は身体拘束について正しく理解して、抑制や拘束をしないケアに努めている。日中、玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても委員会で勉強会を実施し理解を深め、各部署でも防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在各制度による支援を必要としている該当者がいないこともあり、勉強会や制度の活用について検討したことがない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を利用し十分な説明と契約を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談受付担当者を掲示し、意見箱を設けている。また、委員会で苦情を開示し対応策を示し対応策を示し玄関先に掲示している。	苦情相談の受付体制や処理手続きを定めている。面会時や事業所の行事参加時に家族からの意見や要望を聞いている。出た意見は、申し送りノートで全職員で共有している。運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで積極的に意見を求めると共に、日頃から連絡ノートや口頭での報告・連絡・相談を密にするよう努めている。	毎月のミーティングや各種委員会(行事、薬、防災、物品等)、個人面談(年2回)等で職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。意見や提案は毎月2回開催する幹部会議や運営会議で報告し、検討して運営に反映するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で年2回人事考課と目標管理を行い、職員の個々の努力や実績を評価すると共に通常業務においても職員の向上心に配慮した業務配分を行うように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に職員育成委員会を設け、年間を通じて様々な職員研修を計画的に実施していると共に外部研修の機会も必要に応じて設けている。	外部の研修は、全職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。山口県在宅老所・グループホーム協会の研修やケアマネ連絡協議会の研修、県の研修に参加している。法人の職員育成委員会が研修計画を立て、月2回の法人研修に全職員が参加している。内部研修は、毎月のミーティング時に実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会に加入し、研修や交流会などには積極的に参加するように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に何度か体験利用を行い本人様とお話する機会を設け関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用までに何度か面談を行いお話を聞き関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは施設の性質上相談を受けた際即入居できない場合もある為、早急な支援が求められる場合には、他施設サービスや在宅サービスについても説明している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の準備・片付け・掃除・洗濯物をたたむ・季節の壁飾りの作成など出来る限り一緒に行い、大家族として一緒に生活しているという関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から何でも話しやすい雰囲気づくりを心がけると共に、年数回ある家族の参加行事を行い利用者・家族・職員の信頼関係が築けるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とも話し合いながら、苑で出来る範囲での対応と家族での対応を両立させ、出来るだけ自由に外出できるように支援している。	親戚の人や知人の来訪があり、地元の祭りに出かけ近隣の人と交流している他、年賀状やクリスマスカードを出す支援をしている。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用、法事への参加、墓参り、外泊や外出をし、馴染みの関係が継続できるように支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなど皆さんで遊ぶ時間も設けている。入所者同士会話をしている所も見られるが、聞き違いなどからトラブルになりそうな時は、必要に応じて仲裁・見守りをするように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの近隣の病院に入院されているかたには、折を見てお見舞いに出かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での言動からの意向の把握に努めている。はっきりと意思表示されない場合でも、カンファレンスなどで意見交換し検討している。	センター方式を活用している他、日々の関わりの中で聞き取った言葉や様子を介護記録に記録し、カンファレンス時に話し合っ、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴など家族から聞き、まとめ日々の関わりの中で言動からの意向の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で言動からの意向の把握に努めると共に、家事や作業の分配を工夫したりと1日の過ごし方を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを全職員で行い、入所者のケアの内容について情報交換、検討している。	利用者の担当職員を中心に全職員で月1回のカンファレンスを開催し、利用者や家族、かかりつけ医、法人の看護師の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。2ヵ月ごとにモニタリングを実施し、6ヵ月に見直しをしている他、状態に変化があれば、その都度見直ししている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の詳しい言動やそれに対する職員の対応を個別記録に記入し、朝・夕の申し送りでも活用しカンファレンスや介護計画に役立てている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回程度の行事の実施や車での外出、また個別の要望にも出来る限り応じるなどグループホームだからこそ出来る支援の充実に努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人を通じて協働している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、地域にかかりつけ医がある方は引き続き利用され、特にない方は協力医療機関をかかりつけ医とし1ヶ月に1回程度の定期受診、特変時も対応が出来るようにしている。	事業所の協力医療機関の他、本人や家族の希望するの医療機関がかかりつけ医となり、月1回程度の定期的な受信を家族の協力を得て支援している。受診時には、情報を提供している。毎朝、法人の看護師が巡回し、相談するなど連携を図っている。月1回歯科の往診があり、他の医療機関も家族の協力を得て支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員と連携をとりながら、日常の健康管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のお見舞いを兼ねて直接情報交換や相談に行くと共に、家族とも随時連絡を取りながら退院時のスムーズな受け入れが出来るように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為や管理が必要となった場合には対応が困難な為、家族と話し合い医療機関への入院が主となっている。重度化についてはどこまで対応できるか曖昧な為、家族と協議し支援している。	入居時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、かかりつけ医、家族、関係者で話し合い、他施設や医療機関への移設も含めて方針を決め、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人の委員会で勉強会などに参加し、事故防止に取り組むと共に応急手当ができるよう職員は、救命救急の講習を受けている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に発生の日ど記録し、月1回のミーティングで話し合い、法人の事故防止委員会、リスクマネジメント委員会でヒヤリハットや事故報告をし、再発防止策を検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。救急救命講習を全職員が受講しているが、全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練はできていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い部署の具体的な避難方法について学んでいる。法人を通じて地域の方々の協力が得られるよう努めている。	法人全体で年2回、昼夜想定火災時の避難訓練、消火訓練、通報訓練を行っている。運営推進会議に消防団員が参加し土砂災害を含めた災害時の意見交換をしている。今後の地域との協力体制づくりを検討中である。	・地域の協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり(トイレ介助・入浴など)の中で言動に配慮すると共に、ケース記録の記入は事務室内で行うようにしている。	法人の個人情報管理委員会に参加し、研修で学んでいる。利用者を人生の先輩として尊敬し、一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わり(トイレ介助・入浴など)の中で言動に配慮すると共に、ケース記録の記入は事務室内で行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で希望の表出や自己決定が出来るように意図的な声かけをするように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床・入浴・食事・就寝など時間は大まかに定めているが、その時々希望や体調により臨機応変に対応している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美容院は家族対応で以前から利用されているお店に行かれたり、苑の美容サービスを利用している。行事や外出の日は、前日より洋服を選んだり、お化粧をしたりし気分を盛り上げている。	おかずは法人からの配食を利用し、ご飯とみそ汁は事業所でつくっている。利用者は盛り付けや配膳、片づけ等を職員と一緒にしている。ホットケーキやぜんざい、カップケーキ、まんじゅうなどのおやつづくりをしたり、お花見の時には家族も参加して一緒にお寿司とお吸い物をつくっている他、外食(ケーキ屋、パン工房、ファミリーレストラン棟)に出かけるなど、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ごはんや味噌汁の調理・盛り付け・食事・片付け全てを利用者と職員が共に行っている。法人の厨房から決まった献立が調理済みでもらえるが、アレルギーや好みによる食材の変更・形状の変更も可能となっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後のうがい、夕食後の歯磨きを行っている。義歯は夕食前ブラッシングしている。週1回ポリデントで洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗がある方もなるべくオムツや紙パナツの使用を減らし、タイミングを見計らってトイレでの排泄を促している。	排泄記録票を活用し、一人ひとりの状況に合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カンファレンスなど利用し、個別に原因について話し合い飲食物・運動・服薬など工夫している。排便・排尿状況についても記録している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は月曜日～土曜日まで毎日15:00～17:00に入浴することができ、入浴剤やハーブを入れ香りを楽しんで頂いている。日曜日や入浴をされない方は清拭や足浴を行っている。	毎日14時から17時の間を入浴時間としている。入浴剤を入れて香りを楽しめるように工夫をしている。入浴をしない日は、清拭や足浴をしている。入浴をしたくない利用者には、タイミングをみるなど工夫して入浴が出来るように対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお昼寝される方はして頂き、夜間は本人に任せ、体調や生活習慣や気分に合わせて安眠を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当者を決め、その職員を中心に薬の管理を行っている。内服一覧表をカルテに記し、全職員が把握に努めている。主治医及び薬剤師に本人の状態など(毎日の血圧など)書面や家族を通して情報提供している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・掃除・洗濯・花の手入れ・縫い物な個人の得意分野を生かせるように支援している。	食事の準備や調理、後片付け、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜づくりや収穫(枝豆、さつま芋、ピーマン、キュウリ、ミニトマト)、トランプ、かるた、すごろく、ジェンガ、ボーリング、風船バレー、漢字ドリル、計算ドリル、塗り絵、折り紙、工作(羽子板、掛け軸)、ハンカチ染めなど、一人ひとりの活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候が穏やかな日は、戸外に出て散歩や畑の手入れを楽しんでいる。月に1回程度ドライブなど外出支援を行っている。	近所の散歩や図書館に出かけたり、ドライブで白壁の町や初詣、季節の花見(あじさい、つつじ、菜の花)、外食でケーキ屋やパン工房に出かけるなど、外出が出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭所持はトラブルの原因になるため認めていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に季節の手紙を送ったり、本人の希望時には電話もしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや小物を製作し設置したり、日向ぼっこができるスペースを造ったり、花を生けたりと見た目にも楽しい雰囲気を作り、音楽や照明は入所者の意向を確認しながら調整している。	共用空間は、窓から外の木々や花壇、畑を眺めることができ、明るさや温度、湿度、換気に配慮し、ソファに座り日向ぼっこが出来るように配置を工夫している。季節の花を生け、壁には、利用者が作成した季節の飾りつけをして、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間には家の居間を思わせるようなテレビやソファ、畳スペースを設置し入所者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある小物や小タンスなど持ち込みは自由で、壁面には苑で作成した作品を飾っている。ベット・棚・カーテンは備え付けの物を使用している。	使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、壁には利用者がつくった作品やぬいぐるみ、写真が飾っており、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー設計になっており、廊下・居室は手すりを設置している。浴室は一般浴槽の為個人の身体能力に合わせて支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームゆうわ苑

作成日：平成 26年 6月 30日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	救命救急講習を全職員が受講しているが、全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練はできていない。	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練を実施する。	①月1回、勉強会に取り入れる。 ②看護師に協力を得て正しい知識を身につける。 ③緊急時の対応マニュアル(グループホーム独自のもの)を作る。 ④繰り返し実施訓練する。	1年間
2	4	自己評価を行うための書類を全職員に配布してできるところを記入してもらい取りまとめているが、わからないとのことで記入も少なく、改善に向けた意見も出てこない。	全職員での項目の理解と活用をするため勉強会を実施する。	①ミーティングの勉強会に一つずつ取り入れ勉強する。 ②内容でわからないこと疑問なことを話し合う	1年間
3	36	法人全体で年2回昼夜想定火災時の避難訓練、消火訓練、通報訓練を行っている。また運営推進会議に地域の消防団員に参加していただき災害時の意見交換をしているが具体的な地域との協力体制をまだ構築できていない。	地域の具体的な協力体制の構築を働きかける。	①運営推進会議にて提案し協議する。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。